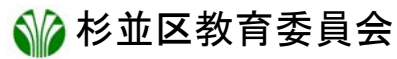
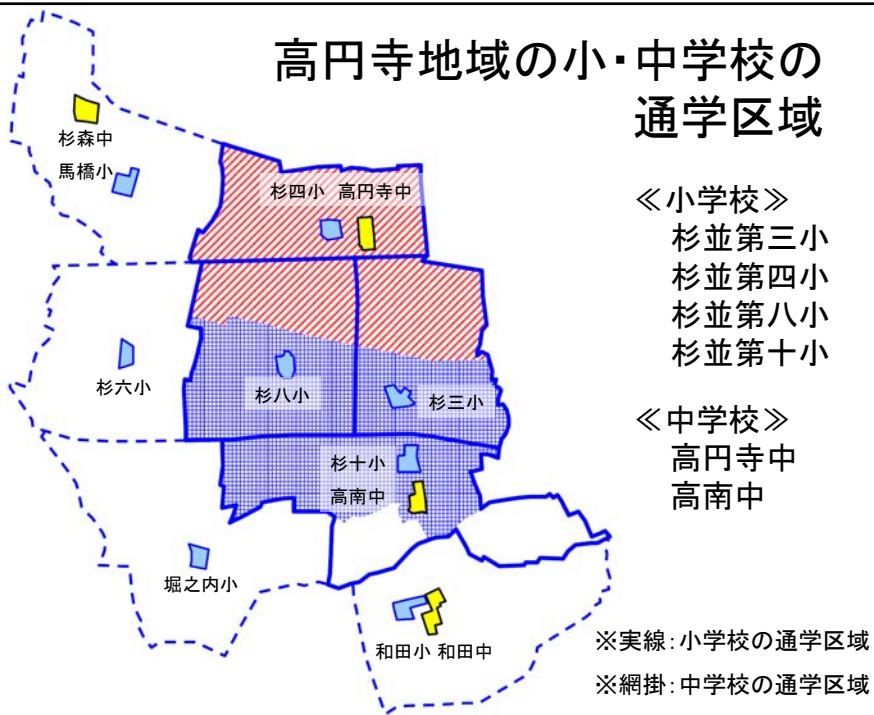


高円寺地域の新たな学校づくり に関する意見交換会

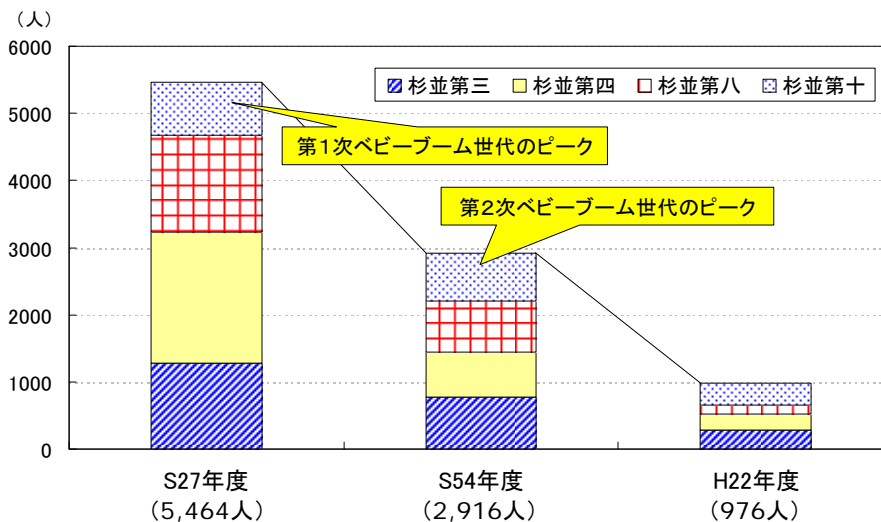


※ 平成22年6月28日から12月3日まで同一の資料を使用しています。

高円寺地域の小・中学校の 通学区域

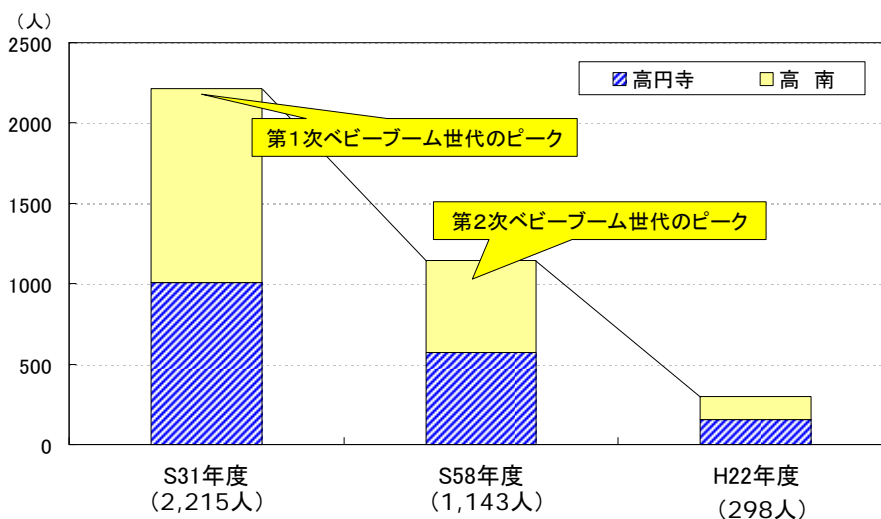


高円寺地域の小学校在籍児童数の推移



➤児童数は、60年前の約1/5、30年前の約1/3に減少

高円寺地域の中学校在籍生徒数の推移



➤生徒数は、50年前の約1/8、30年前の約1/4に減少

児童・生徒数の現状(平成22年4月)

【小学校】

4校の児童数 976人

4校の通学区域居住の学齢人口数(小学校) 1,219人

(その他の主な進学先)国・私立小、和田小、杉六小、馬橋小

【中学校】

2校の生徒数 298人

2校の通学区域居住の学齢人口数(中学校) 553人

(その他の主な進学先)国・私立中、和田中

杉並区が目指す学校

- 1 子供たちの活気にあふれ、のびのびと過ごせる学校
- 2 義務教育9年間を見通した小中一貫教育がより実践しやすい学校
- 3 地域の防災拠点、地域コミュニティの拠点として地域の人が集まりやすく、地域との協働が行いやすい学校

新しい学校づくりの基本的な考え方

- 1 高円寺中、高南中の通学区域を基本とする
(小・中学校の通学区域を合わせることが理想)
- 2 上記通学区域内の学校を再編し、それぞれの学校の伝統、よき特色を継承しながら新しい学校をつくる
- 3 通学区域は、小学校で概ね半径1km、中学校で概ね半径1.5kmの範囲とする

⇒ 学校敷地を新たに取得することは困難であるため、既存の学校の校地を活用する

地域の方々からの意見

- 1 小学校・中学校とも、学校は1校ではなく複数から選択できることが望ましい
- 2 町会などの区切りと通学区域は、なるべく整合を図ってほしい
- 3 通学路は安全で、可能な限り近い方が好ましい

学校規模

1 杉並区立小中学校適正配置基本方針(21年2月改定) における適正規模

	全校学級数	全校児童・生徒数	1学年あたりの学級数
小学校	12~18学級	367~550人	2~3学級
中学校	9~12学級	301~402人	3~4学級

2 今年度の児童、生徒数を基準に当てはめると、 小学校2校、中学校1校に相当

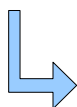
- 小学校 1校あたり 488人(976÷2) ……1学年平均 81.3人
- 中学校 2校の合計 298人(154+144) ……1学年平均 99.3人
(平成22年5月1日現在)

学校選択が可能な複数の学校

地域要望も勘案し、高円寺地域の中で小中学校が
選択できるよう2つのグループに再編(小学校2校、
中学校2校)

- ① 小学校1校あたり 488人……1学年平均 81.3人
(基本方針に基づく適正規模(367~550人)の範囲内)
- ② 中学校1校あたり 149人……1学年平均 49.6人
(基本方針に基づく適正規模(301~402人)以下)

⇒ 魅力ある中学校づくりを行い生徒数増を目指す
(私立校から公立校へ)



- ① 小中一貫教育の実施・充実
- ② 地域との連携の更なる充実

小中一貫教育の特徴

小学校						中学校		
1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年

小中学校の教職員が連携し、9年間を通した教育活動を展開

学級担任制

教科担任制

(英語など、一部の教科で
中学校の教員が小学校で指導)

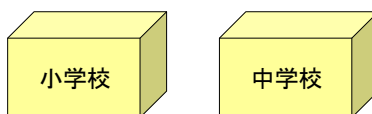
小中学生の交流活動

(児童会・生徒会活動、合同の学校行事、地域活動への参加など)

小中一貫教育実施における施設形態の考え方

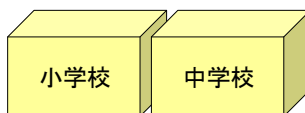
○ 施設分離型

小学校と中学校が距離的に
離れている型



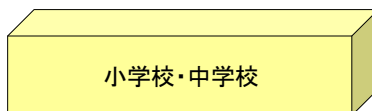
○ 施設隣接型

小学校と中学校が隣接
している型



○ 施設一体型

同一校舎内で、小学生と中学生
が学習・生活する型



※平成27年度に新泉小・和泉小・和泉中が統合し、区内初の施設一体型の
小中一貫教育校として開校予定

望ましい施設規模

〈活気にあふれつつも、ゆとりある学校施設を目指すためには〉

1 仮に、小学校500名、中学校250名
とした場合の必要面積

(小)校庭 5,000㎡
校舎(建築面積) 4,000㎡
合計 9,000㎡

(中)校庭 3,700㎡
校舎(建築面積) 4,000㎡
合計 7,700㎡



小・中学校を合わせ、16,700㎡が必要

2 〈現況〉

学校名	敷地面積
高円寺中	11,256㎡
高南中	10,226㎡
杉並第三小	9,905㎡
杉並第四小	9,277㎡
杉並第八小	8,857㎡
杉並第十小	10,000㎡

複数の学校敷地を活用

○ 2つのグループそれぞれで、小中一貫教育を推進



より効果的に進めるためには、小中間の距離が短い
方が望ましい

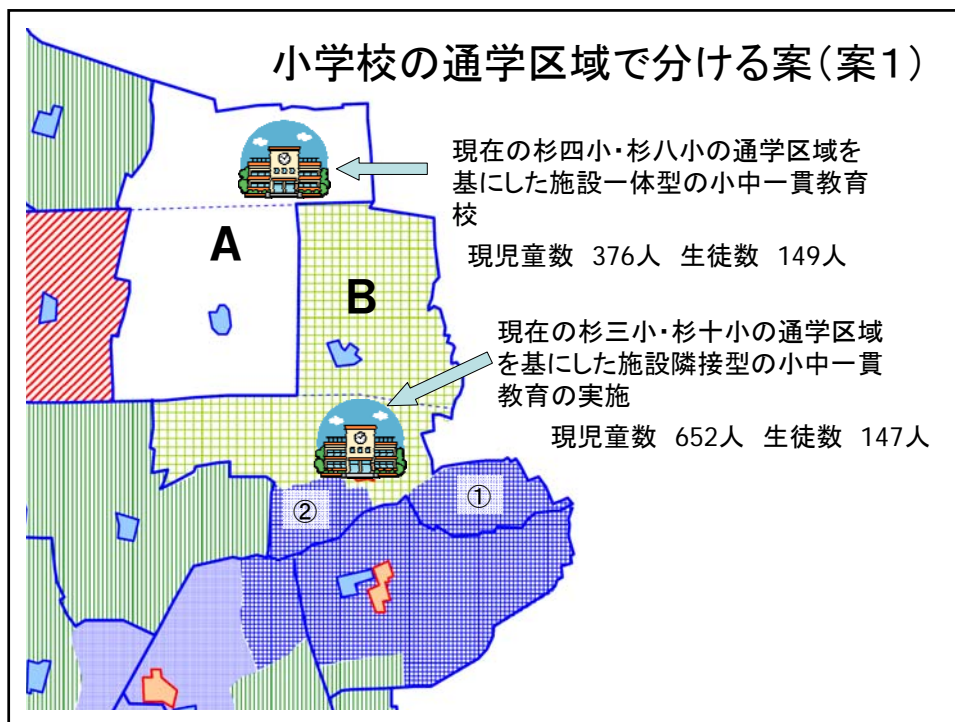


現況の学校の位置を踏まえると

① 高円寺中と杉並第四小学校の敷地

② 高南中と杉並第十小学校の敷地





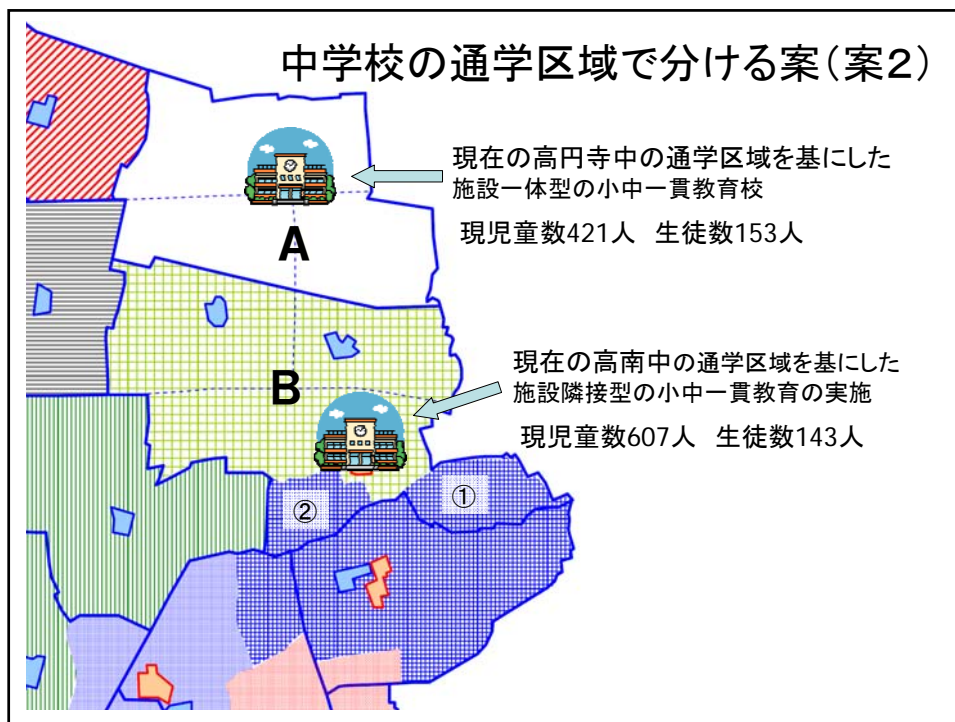
小学校の通学区域で分ける案のメリット・デメリット

○ メリット

- ・ 杉四小、杉八小、高円寺中と杉三小、杉十小、高南中の2つのグループに分けて話し合いが可能であり、統合の時期も児童・生徒数に応じた柔軟な対応が可能
- ・ 小学校の在籍児童が分かれることなく統合が可能

○ デメリット

- ・ 児童の分布に偏りが出るとともに、通学区域(通学距離)のバランスが悪い。



中学校の通学区域で分ける案のメリット・デメリット

- メリット
 - ・ 2つのエリアの人数構成のバランスが取れている。
 - ・ 通学区域の成形がよく、町会区域等との整合性が取れている。
- デメリット
 - ・ 杉三小、杉八小は、学校づくりを進めていくうえで、2つのグループの協議の場に参加しなければならない。
 - ・ 杉三小、杉八小は、統合までの児童・生徒の交流方法についての工夫が必要である。

校舎、敷地の活用方法

- 北側のグループ
高円寺中の老朽化が進んでいるため、同校敷地に小中一貫教育校を建設し、現杉四小の校庭、体育館等は一貫教育校の学校施設として活用

- 南側のグループ
小中連携教育を実施しやすいよう、既存校舎の改修を行い、教育環境の充実を図る

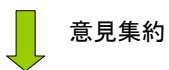
新しい学校の開校まで

開校前からグループ間の児童・生徒・教員による交流授業、行事の合同開催を意図的、計画的に実施し、相互交流を深める

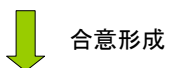
- 工事期間中のグループ間の校舎の共同利用
- 小学校高学年からの部活動参加
- 中学校でのTT、少人数、習熟度別指導の充実
- 地域・保護者等からなる分野別の協議会を設置し、課題を検討

今後の進め方

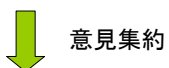
①各校の保護者との意見交換会の実施



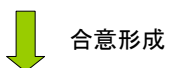
②高円寺地域全体の意見交換会の実施



③区教委が再編骨子案の作成



④骨子案に関する意見交換会の実施



⑤計画案の作成